9　消耗部品の交換方法

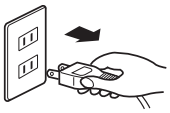
日々の作業を安定して能率的に行うために、作業前・作業後のメンテナンス・早い時期の消耗部品の交換をお勧めいたします。
以下の「消耗部品の交換方法」をよくお読みいただき、正しく作業を行ってください。

⚠ 警告　消耗部品の交換やメンテナンスの時は、必ず電源プラグを手で持ってコンセントから抜き、作業を行ってください。プラグを差し込んだまま作業を行うと感電する危険性があります。

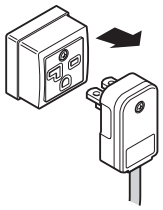
⚠ 警告　取扱説明書に記載されている以外の間違った方法で交換すると機械が正常に働かないばかりか、感電や火傷をする危険性があります。

⚠ 警告　消耗部品は必ず弊社指定の部品をご使用ください。指定外の部品を使用されると製品の性能が正しく発揮できないだけでなく、故障の原因にもなります。

100V 仕様機



200V 仕様機

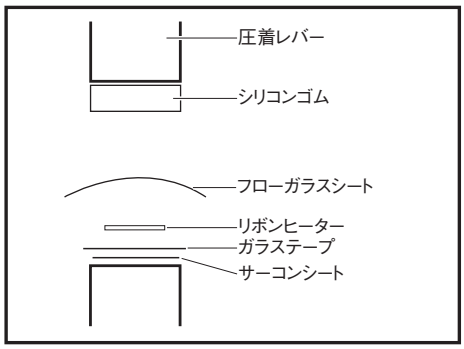


必ず電源プラグをコンセントから抜いた状態で作業を行ってください。

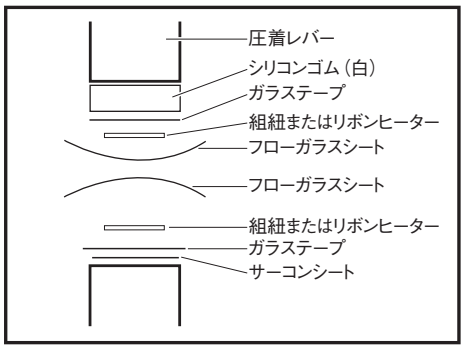
シール部の構造

シール部は下イラストの部品から構成されていますので、部品交換の時は順番を間違えないように取り付けてください。

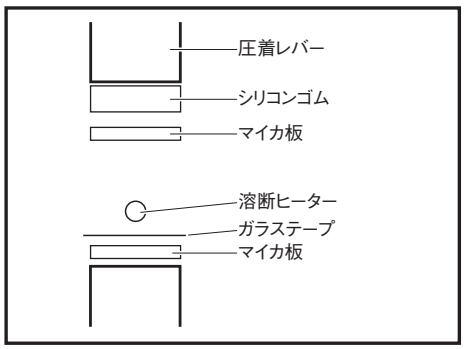
1　片側加熱式



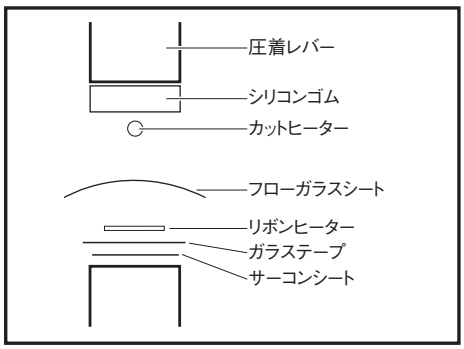
2　上下加熱式



3　溶断仕様機



4　5C 、10C



9-1　フローガラスシートのずらし方

【必　要　物】 はさみ、プラスドライバー

【交換の目安】 フローガラスシートが破れた、焦げた、シールが汚い等

フローガラスシートは単品販売、補修部品セット販売しています。

フローガラスシートは予備として巻取棒に 25 ～ 30cm 巻いてあります。

□ 下側フローガラスシート（対象：全製品）

1　手前 2 個の樹脂ナット（黒）を緩めて、フローガラスシート押さえ板（下）（①）を外します。

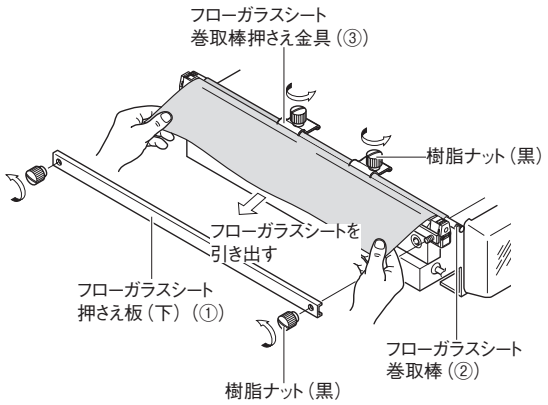
2　フローガラスシート巻取棒（②）が回せる程度に樹脂ナット（黒）2 個を緩めて、フローガラスシートを矢印方向に引っぱり出してください。

3　フローガラスシートの不要部分をハサミで切り取ります。

4　フローガラスシートの端をフローガラスシート押さえ板（下）（①）とフローガラスシート押さえ台の間に入れ、フローガラスシート押さえ板（下）（①）を樹脂ナット（黒）で固定します。

5　フローガラスシート巻取棒（②）を回してフローガラスシートのたわみをなくしてください。

6　樹脂ナット（黒）を締めてフローガラスシート巻取棒押さえ金具（③）でフローガラスシート巻取棒（②）を固定してください。



□ 上側フローガラスシート（対象：400Y-5W 、 10WK）

1　フローガラスシート巻取棒（⑤）が回せる程度に圧着レバー裏の 2 個の樹脂ナット（白）を緩めます。

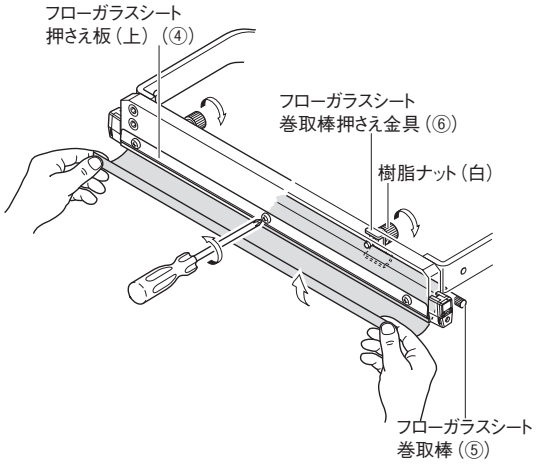
2　フローガラスシート押さえ板（上）（④）を止めているビスを緩めてフローガラスシートの端を引き出し、フローガラスシートを矢印の方向に引き出してください。

3　フローガラスシートの不要部分をハサミで切り取ります。

4　フローガラスシートの端をフローガラスシート押さえ板（上）（④）と圧着レバーの間に入れ、2 で緩めたビスを締めてフローガラスシートを固定します。

5　フローガラスシート巻取棒（⑤）を回してフローガラスシートのたわみをなくしてください。

6　樹脂ナット（白）を締めてフローガラスシート巻取棒押さえ金具（⑥）でフローガラスシート巻取棒（⑤）を固定してください。

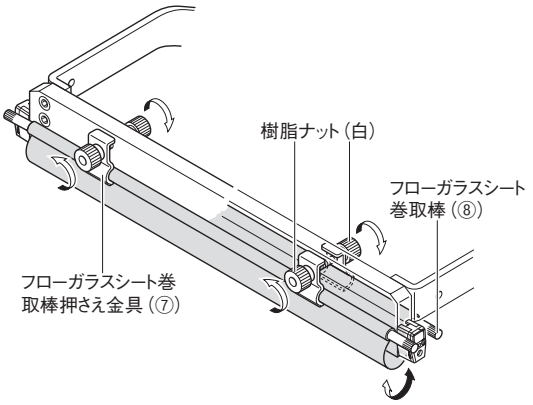


□ **上側フローガラスシート（対象：600Y-5W 、10WK）**

1　フローガラスシート巻取棒（⑧）が回せる程度に圧着レバーの表・裏にある樹脂ナット（白）4 個を緩めます。

2　ヒーターの下に新しいフローガラスシートが来るように前後いずれかのフローガラスシート巻取棒（⑧）にフローガラスシートを巻き取ってください。

3　1 で緩めた樹脂ナット（白）を締めてフローガラスシート巻取棒押さえ金具（⑦）でフローガラスシート巻取棒を固定してください。。



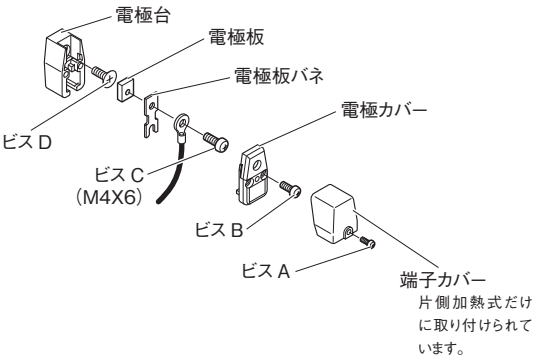
9-2　ヒーターの交換（組紐・リボンヒーター共通）

【必　要　物】　プラスドライバー

【交換の目安】　凸凹が発生した（リボンヒーターのみ）、ヒーターが切れた、シールが汚い　等

組紐・リボンヒーターは単品販売、補修部品セット販売しています。

ヒーターを取り付けている電極は、右イラストのような部品構成になっています。



⚠ 警告　もし誤って、ビス C を紛失した場合、ビス C（M4 × 6）より長いビスを代用しないようにしてください。ビス C より長いビスを使用すると電極台を固定しているビス D と接触して、ショートする危険性があります。

⚠ 警告　ヒーター交換時はガラステープ、サーコンシートの破損状態もかならず確認し、傷んでいるようであれば同時に交換してください。
ガラステープ、サーコンシートが傷んでいてヒーターと本体フレームが直接接触するとショートする危険性があります。

MEMO　ビスや電極カバーを紛失しない様に電極カバーを外さないでヒーターを交換できる構造になっています。

注！　5C 、10C タイプの上側電極は上イラストの電極と構造が異なる電極になります。

□ 下側ヒーター（対象 :600Y 溶断以外の製品）

注！ 工場出荷時、Fi-400Y-10WK PK 、Fi-600Y-10WK PK には組紐ヒーターが取り付けられています。組紐ヒーターはリボンヒーターに交換可能です。
上記以外の機種にはリボンヒーターのみを使用しています。

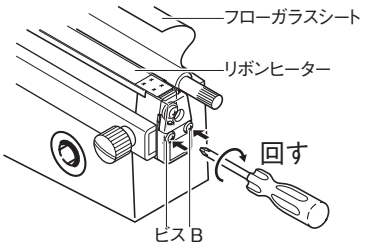
注！ 組紐ヒーターからリボンヒーターへ交換、またはリボンヒーターから組紐ヒーターへ交換した場合、同じ加熱時間でシール状態が異なる場合があります。シール状態を確認しながら適切な加熱時間に調整してください。

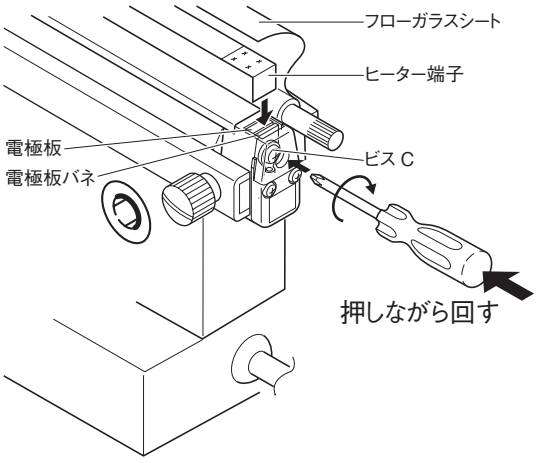
1 フローガラスシートを取り外します。（「9-1 フローガラスシートのずらし方」を参照してください。）
2 左右双方電極のビス A をプラスドライバーで緩めて端子カバーを外します。（右イラストは端子カバーを取り外した状態です。）
3 左右双方電極のビス B を緩めてヒーターが左右に張られていない状態にします。（電極カバーを取り外す必要はありません。）

⚠ 注意 ビス B を緩めないと、ヒーターが左右に張られた状態のままになるのでヒーターを取り付ける際に適切に電極板と板バネの間にヒーター端子をセットできなくなります。

4 左右双方電極の電極カバーの穴にプラスドライバーを差し込み、ビス C を緩めるとヒーターを取り外すことができます。
5 新しいヒーターを取り付ける時は、電極の片方ずつ、電極板と板バネの間にヒーター端子を差し込み、電極からヒーターが浮かないようにヒーター端子を指で押さえたまま、ヒーター止めビス C をドライバーで押しながら締め付けて固定します。
6 3 で緩めたビス B を確実に締め付けヒーターが左右に張られた状態にします。（ビス B の締め付けが緩いとヒーターが左右に張られた状態にならずヒーターが損傷する原因になります。）
7 電極に端子カバーをビス A で固定してください。

注！ 下記イラストはリボンヒーターですが、組紐ヒーターでもヒーターの交換方法は同じです。





□ 下側ヒーター（対象：600Y 溶断タイプ）

【必　要　物】 プラスドライバー

【交換の目安】 ヒーターが切れた、フィルムの切れが悪い等

溶断ヒーターは単品販売しています。

1　電極カバー止めビスをプラスドライバーで緩めて、電極カバーを外します。

2　電極レバーを指で起こしてヒーターの張りを緩めます。

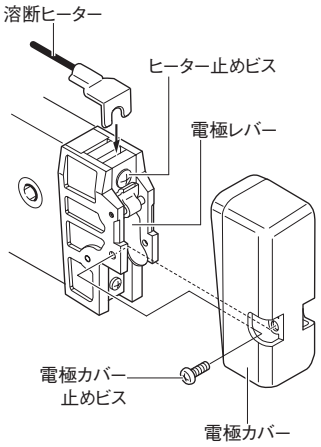
3　ヒーター止めビスをプラスドライバーで緩めるとヒーターが外せます。

4　取り付けの時は、電極の片方ずつ、電極レバーを起こしたままの状態で、電極からヒーターが浮かないようにヒーター端子を指で押さえながらヒーター止めビスで締め付けて固定します。

5　ヒーターを固定したら、電極レバーを元の状態に戻してヒーターを張ります。

6　1 で外した電極カバーを取り付けます。

⚠ 注意 **ヒーター交換の後、必ず電極カバーを取り付けてください。**



□ 上側ヒーター（対象：上下加熱式）

注！ 工場出荷時、Fi-400Y-10WK PK 、Fi-600Y-10WK PK には組紐ヒーターが取り付けられています。組紐ヒーターはリボンヒーターに交換可能です。
上記以外の機種にはリボンヒーターのみを使用しています。

注！ 組紐ヒーターからリボンヒーターへ交換、またはリボンヒーターから組紐ヒーターへ交換した場合、同じ加熱時間でシール状態が異なる場合があります。シール状態を確認しながら適切な加熱時間に調整してください。

1　上側のフローガラスシートを取り外します。（「9-1 フローガラスシートのずらし方」を参照してください。）

2　左右双方電極のビスＢを緩めてヒーターが左右に張られていない状態にします。（電極カバーを取り外す必要はありません。）

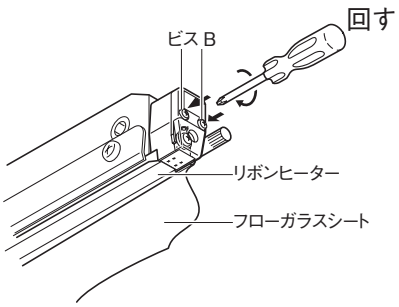
⚠ 注意 ビスＢを緩めないと、ヒーターが左右に張られた状態のままになるのでヒーターを取り付ける際に適切に電極板と板バネの間にヒーター端子をセットできなくなります。

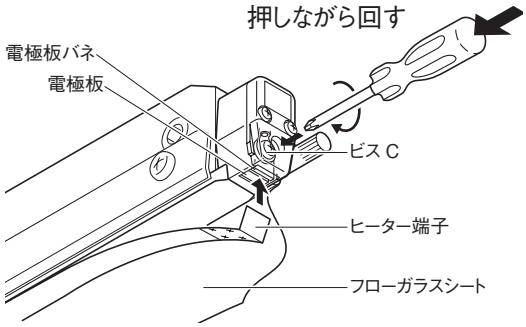
3　電極カバーの穴にプラスドライバーを差し込み、ビスＣを緩めるとヒーターを取り外すことができます。

4　新しいヒーターを取り付ける時は、電極の片方ずつ、電極板と板バネの間にヒーター端子を差し込み、電極からヒーターが浮かないようにヒーター端子を指で押さえたままヒーター止めビスＣをドライバーで押しながら締め付けて固定します。

5　2で緩めたビスＢを確実に締め付けヒーターが左右に張られた状態にします。（ビスＢの締め付けが緩いとヒーターが左右に張られた状態にならずヒーターが損傷する原因になります。）

注！ 下記イラストはリボンヒーターですが、組紐ヒーターでもヒーターの交換方法は同じです。





□ 上側ヒーター（対象：5C 、10C タイプ）

【必　要　物】 マイナスドライバー、プラスドライバー

【交換の目安】 ヒーターが切れた、フィルムの切れが悪い等

カットヒーターは単品販売しています。

1　電極カバー止めビスをプラスドライバーで緩めて、電極カバーを外します。

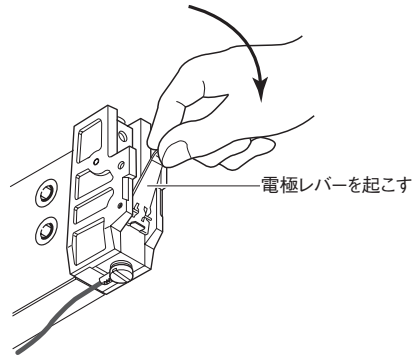
2　電極レバーを指で起こしてヒーターの張りを緩めます。

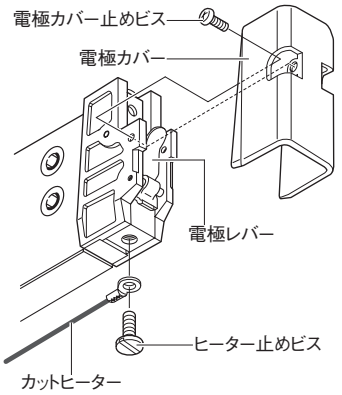
3　ヒーター止めビスをマイナスドライバーで緩めるとヒーターが外せます。

4　取り付けの時は、電極の片方ずつ、電極レバーを起こしたままの状態で、ヒーター止めビスで締め付けて固定します。

5　ヒーターを固定したら、電極レバーを元の状態に戻してヒーターを張ります。

6　1 で外した電極カバーを取り付けます。

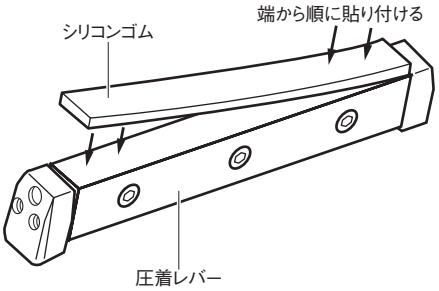




9-3　シリコンゴムの交換

【必　要　物】　アルコール（エタノール）
【交換の目安】　シールが汚い等
シリコンゴムは単品販売、補修部品セット販売しています。

1　シリコンゴムを取り去ります。
2　圧着レバーの金属部に残った粘着のりをアルコール（エタノール）を使ってとります。
3　新しいシリコンゴムを端から順に丁寧に貼ってください。



注！　シリコンゴムは貼り直しができません。

9-4　ガラステープ、サーコンシートの交換

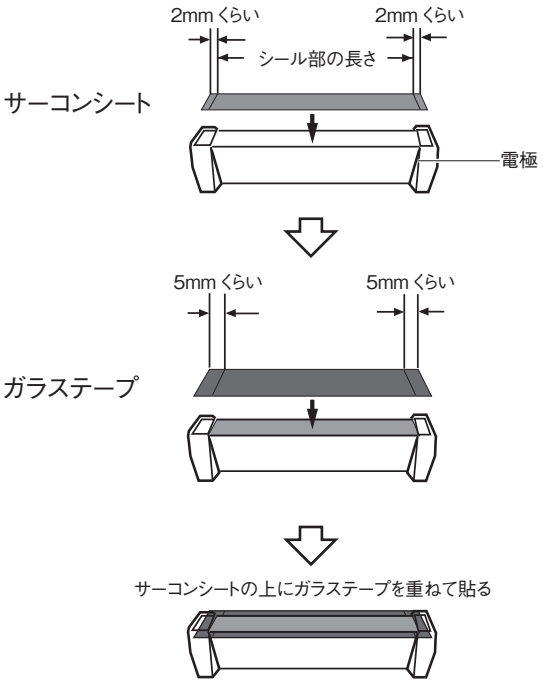
【必　要　物】　はさみ、プラスドライバー
【交換の目安】　ヒーターがよく切れる　シールが汚い等
ガラステープ、サーコンシートは単品販売、補修部品セット販売しています。

1　フローガラスシート、ヒーターの交換方法をお読みいただき、フローガラスシート、ヒーターを取り外してください。
2　ヒーター下側のガラステープとサーコンシートをきれいにはがしてください。

注！　粘着のりが残っている上にサーコンシート、ガラステープを貼りますと、シール面に悪影響をおこします。

3　新しいサーコンシートをシール部の長さより、約2mm 長めに貼り付けます。（1枚）
4　ガラステープをサーコンシートの上に重ねて貼り付けます。約 5mm ずつシール面の外側（電極の上）から貼り付けてください。（1枚）

注！　ガラステープ交換の際に、サーコンシートのシール受け板への貼り付け粘着力が低下していましたらガラステープとともにサーコンシートも交換してください。

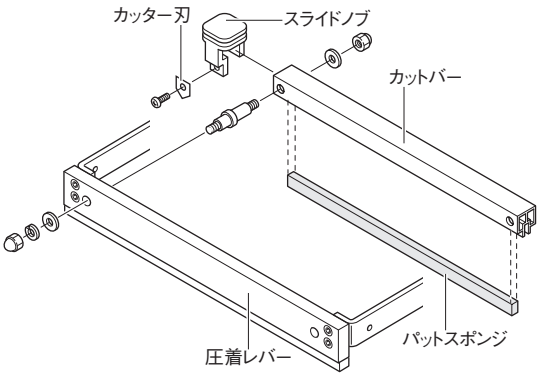


9-5　カッター刃、パットスポンジの交換（対象 :YC タイプ）

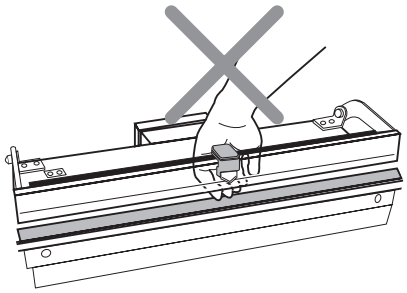
【必　要　物】 プラスドライバー、スパナ
【交換の目安】 カッターの切れが悪い等

カッター刃、パットスポンジは単品販売しています。

1　圧着レバー前面の袋ナットをスパナなどで緩めるとカットバーのユニットが外れます。
2　カッター刃はスライドノブにビスで固定してありますのでプラスドライバーで緩めて交換してください。
3　パットスポンジはカットバーユニットを圧着レバーから外した状態でも、取り付けてある状態でも、手で抜き差し交換できます。



⚠ 注意　カッターの刃に充分注意して作業を行ってください。特にカットバーのユニットを圧着レバーから外す前はカッター刃が見えにくい状態ですのでカッターのある位置を確認して触れないように注意しながら作業を行ってください。



⚠ 注意　パットスポンジを交換する時もカッター刃の交換と同様にカッター刃に充分注意して抜き差し作業をしてください。

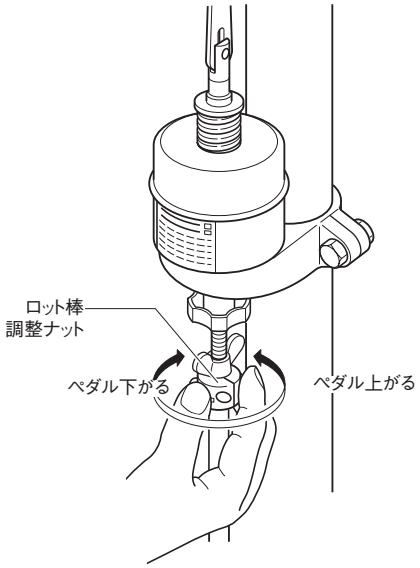
10 各部の調整方法

10-1 ペダル高さの調整

ロット棒調整ナットを回すことでペダルの高さ（角度）を調整できます。
ロット棒調整ナットの上の蝶ナットを緩めてください。調整が」終了した後は必ず蝶ナットを締め付けてロット棒調整ナットを固定してください。

⚠ 注意 **ロット棒調整ナットを回し過ぎて、マイクロスイッチが ON 状態にならない様になったり、ペダルを踏み込んだときにシーラーが転倒したりする危険性がありますので、過度の調整は避けてください。**

1 ロット棒調整ナットを左へ回すとペダルが下がります。
2 ロット棒調整ナットを右へ回すとペダルが上がります。



10-2 シール圧力の調整

1 PK-102 本体のオレンジ色のカバーを手で下へ押さえながら、PK 本体下の調整ノブを回します。
2 オレンジ色のカバーの下端を PK 本体側面のシールに記載してある圧力調整目盛の強弱の範囲内で調整します。